

校長室だより



令和4年5月6日

校長 齋藤 瑞穂

風薫る5月 ~さわやかな季節になりました~

5月になりました。空気がさわやかで、学校のしき地内の花々も緑も美しく、私はよい季節だなあ、気持ちいいなあと思いながら学校へ通っています。



ピオトープの
スィレンです。
今年もきれいに
さきました。

このようなさわやかで美しい5月の様子を、「風薫る5月」と表すことがあります。高学年のみなさんは、聞いたことがあるかもしれませんね。「風薫る」は初夏の季語にもなっています。この言葉は、もともとは「薫風」という中国の言葉を日本風に言い直したものです。「薫風」とは、初夏、新緑の間を吹いてくる心地よい風のこと。目にもあざやかな、木々の若い美しい葉の間を通過してふいてくる風に緑の香りを感じる、というのがなんともすてきですね。どうですか？みなさんも今の季節ならではの緑の葉っぱの香りを感じますか？

風は、気温差や気圧差で起きる空気の動きです。みなさんは風について、風が強いとか弱いとか、冷たいとか暖かい、というくらいしか意識していないと思いますが、むかしの人は風に季節の移り変わりや農作業のサインなどを敏感に感じ取っていました。ですから、風にたくさん名前を付けて区別しており、「薫風」もその一つなのです。みなさんにもなじみのある風の呼び名としては、「春一番」や「木枯らし」がありますね。

ちなみに、風の強さで言えば、「薫風」は木々の葉をそよそよとゆらすくらいの風です。この時期のもう少

し強い風は、青嵐と書いて「青嵐」(あおあらし、せいらん)と言うそうですよ。木々の若葉をザッといっせいにゆらしてふきぬけるような風でしょうか。興味をもった人は、ぜひほかの風の名前も調べてみてくださいね。

消防車も消防士さんもカッコいいね！ 消防写生会がありました。



5月6日、校庭に消防車が来て、消防写生会が行われました。うすぐもりのやわらかい日差しの下、緑の芝生に映える、真っ赤な消防車と銀色の消防服を着た消防士さん。その姿をボール紙いっぱいに写しとろうと真剣な1・2年生。きっと今年も力作がそろうことでしょう。出来上がりが楽しみです。

保護者の皆様へ

連休の谷間の今日、子供たちはどんな様子で登校して来るかな、眠そうしている子も多いから、と少し心配しつつ校門に立っていました。しかし、そんな心配をよそに、多くの子供たちはいつも以上に元気にやってきました。きっと連休中、おうちの方々と過ごす時間の中で、いつもと違う経験をしたり、たくさん甘えたりして、心が満たされたからでしょう。行動制限のないGWは3年ぶりでしたから、久しぶりに遠方のおいさん、おばあさんに会ってきたという子もいたようです。

GWが終わると、夏休みまでまとまった連休はありません。気温の上昇とともに、子供たちにとっては体力的に負担の大きい時期になります。「早寝・早起き・朝ごはん」で生活リズムを整えて、暑さに負けないよう、体調管理をよろしく願っています。